

調査速報

外食需要動向(2023年6月)

実質外食支出金額は2か月連続で前月比マイナス  
物価上昇により実質外食支出が頭打ち

主任研究員  
佐橋 官  
045-225-2375  
sahashi@yokohama-ri.co.jp

要約

- 家計の実質外食支出金額は、全国、関東地方とも、前月比では2か月連続の減少となった。
- 外出機会の増加や訪日外国人の増加で来店客数は増加しており、名目の外食産業売上高は前年同月比で増加しているものの、物価上昇を加味した実質外食支出に頭打ち感が出ている。
- 業態別に店舗数の減少を加味した1店舗当たりの売上高を算出すると、パブ・居酒屋業態でも6月は2019年比96.4%となり、ほぼコロナ禍前の水準まで回復したことが確認できる。

1. 家計の実質外食支出金額は前月比では2か月連続の減少

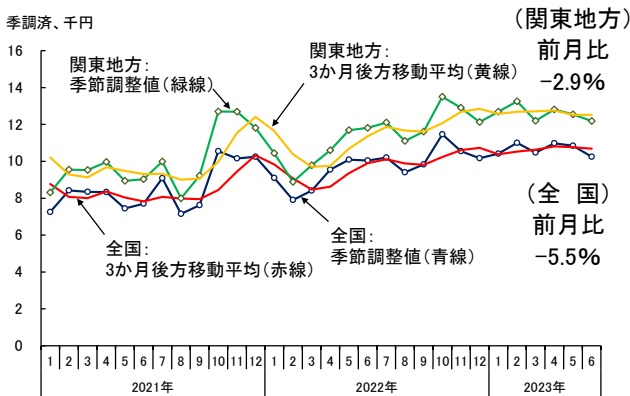
総務省「家計調査」に基づく2023年6月の1世帯あたり実質外食支出金額(季節調整済)は、全国が前月比5.5%減(前年同月比2.0%増)、関東地方が前月比2.9%減(前年同月比3.1%増)となった(図表1)。

外食各社の相次ぐ値上げにより、家計の外食支出は、実際の支払額ベース(名目ベース)では増加しやすくなっている。しかしながら、そうした価格上昇の影響を除いた実質ベースでみると、家計の外食支出は全国、関東地方とも前月比で2か月連続の減少と、頭打ちの様相を呈している。新型コロナウイルスの感染法上の位置づけが「5類」に移行したことで、旅行やレジャー等の外出機会が増加しているが、消費者物価の上昇を加味してみると、その恩恵は極めて限定的になりつつあるといえよう。

2. 外食産業の客単価、客数の伸びは5月から大きな変化なし

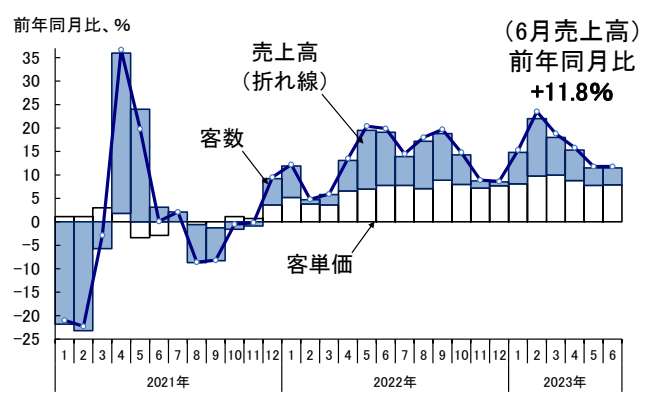
一般社団法人日本フードサービス協会が集計している2023年6月の外食産業売上高は前年同月比11.8%増となった(図表2)。6月も客単価(同7.9%増)と客数(同3.6%増)が、ともに増収率の拡大に寄与しており、前月(5月)から大きな変化はなかった。2023年6月の訪日外客数(推計値)は、コロナ禍の発生以降で初めて200万人を回復した。そのため、外食産業の客数の増加には、国内の消費者の需要拡大に加えて、インバウンド需要の復活も含まれるとみられる。

図表1 実質外食支出金額は前月比マイナス  
(全国、2人以上の世帯、季調済)



注1:総務省「家計調査」の用途分類「一般外食」。  
注2:実質化と季節調整は浜銀総合研究所が実施。  
出所:総務省「家計調査」より浜銀総研作成

図表2 外食産業の客単価の上昇が続く  
(全国、全店、前年同月比)



注1:全店とは、既存店と新規店の合計。  
注2:売上高と客単価は名目ベースの税抜き価格による比較。  
注3:売上高、客数、客単価は店内飲食だけでなく店外飲食も含む値。  
出所:一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」より浜銀総研作成

### 3. 1店舗当たり客数は、パブ・居酒屋業態も含めて、コロナ禍前の水準にほぼ戻った

業態別の状況を見ると、洋風ファストフードの2023年6月の客数は2か月連続で前年割れ（前年同月比2.4%減）となり、同業態における客数の増加は頭打ちとなっている（図表3）。同業態では期間限定の新商品の販売は好調である。他方、前月号でも述べたように、外出が増え外食の機会が多様化することによって、コロナ禍下では洋風ファストフード業態に集中していた顧客が他業態の飲食店へ流出し、同業態の客数が前年同月比で減少しているとみる。他方、ファミリーレストラン業態では、コロナ禍下で休止していた深夜営業を再開する動きも出て来ている。

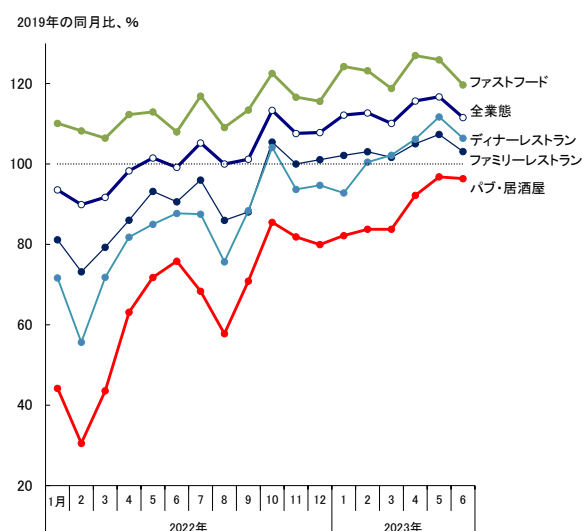
パブ・居酒屋業態の6月の売上高はコロナ禍前の2019年比で66.1%の水準である。ただし、店舗数の減少（6月、2019年比31.4%減）を考慮すると、6月の1店舗当たりの売上高は2019年比で96.4%の水準となる（図表4）。3～5月の歓送迎等の繁忙期を過ぎており、また、深夜帯の営業が再開されていないにもかかわらず、1店舗当たりの売上高の戻りが確認できる。他業態に比べて遅れていたパブ・居酒屋の売上高も、ようやくコロナ禍前の水準を回復しつつある。

図表3 外食産業売上高  
(2023年6月、全国、全店)

(前年同月比増減率)				
業態	店舗数	売上高	客数	客単価
<b>全体</b>	<b>36,500</b>	<b>11.8%</b>	<b>3.6%</b>	<b>7.9%</b>
<b>ファストフード</b>	<b>21,226</b>	<b>11.2%</b>	<b>3.1%</b>	<b>7.8%</b>
洋風	6,324	8.4%	-2.4%	11.1%
和風	5,069	17.9%	11.7%	5.6%
麺類	3,150	13.1%	4.6%	8.2%
持ち帰り米飯/回転寿司	4,325	8.3%	0.9%	7.3%
その他	2,358	13.1%	7.2%	5.5%
<b>ファミリーレストラン</b>	<b>10,298</b>	<b>11.8%</b>	<b>4.3%</b>	<b>7.2%</b>
洋風	5,173	11.9%	4.2%	7.3%
和風	2,571	11.4%	2.9%	8.2%
中華	1,187	11.6%	6.7%	4.6%
焼き肉	1,367	12.4%	4.5%	7.6%
<b>パブ・居酒屋</b>	<b>1,855</b>	<b>14.7%</b>	<b>6.5%</b>	<b>7.7%</b>
パブ・ビアホール	389	16.4%	5.1%	10.8%
居酒屋	1,466	13.9%	7.4%	6.1%
<b>ディナーレストラン</b>	<b>950</b>	<b>13.0%</b>	<b>8.8%</b>	<b>3.9%</b>
<b>喫茶</b>	<b>1,903</b>	<b>18.0%</b>	<b>3.9%</b>	<b>11.6%</b>
<b>その他</b>	<b>268</b>	<b>18.4%</b>	<b>6.7%</b>	<b>9.0%</b>

注1: 全店とは、既存店と新規店の合計。  
 注2: 売上高と客単価は名目ベースの税抜き価格による比較。  
 注3: 売上高、客数、客単価は店内飲食だけでなく店外飲食も含む値。  
 出所: 一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」  
 より浜銀総研作成

図表4 1店舗あたりの業態別売上高の推移  
(全国・全店、2019年比)



注1: 全店とは、既存店と新規店の合計。  
 注2: 名目ベースの税抜き価格による比較。  
 注3: 店内飲食だけでなく店外飲食も含む値。  
 出所: 一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」  
 より浜銀総研作成

本レポートは、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると判断した情報に基づいて作成したものです。その正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載した内容は、レポート執筆時の情報に基づくものであり、レポート発行後に予告なく変更されることがあります。ご利用の際は、最新の情報をご確認ください。よろしくお願いいたします。